

# 共同礼拝

2024年2月18日(日) 午前10時30分

夕の共同礼拝は南支区総会のため休み

司式 牧師 高橋和人

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩 編 103編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

創世記 17章8節(旧21)

使徒言行録 7章1～16節(新224)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 2

説 教 「ステファノの説教」 牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 II 82

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。  
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 2月の祈り

礼拝に向けての日々の歩みと心備えが常に導かれるように。

被災地の教会の伝道者・信徒が守られ、教会の復興が支えられるように。救援にあたる人々の働きが力づけられるように。

寒さ厳しい中であって。高齢、また、体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

## 今日の祈り

南支区の諸教会を覚えて、それぞれの教会の礼拝と宣教が力づけられ、教職信徒が守られるように。教会相互の交わりと協力が回復されるように。

主イエスの十字架の受難と死を思い、贖いによる救いの信仰を確かめて行くことができるように。

愛する家族を主の御許に送った人々に、主が寄り添い慰めが与えられるように。

能登半島の震災の被災者、教会と教会員が守られるように。

病を負う兄弟姉妹とそれを支える人たちが守られるように。

「ステファノの説教」 姜 徑米

使徒言行録7章1～16節

律法と神殿を冒頭する罪で訴えられたステファノが、大祭司を始めとする最高法院の人々の前で語った弁明が7章に語られています。7章は長いもので、弁明と言うよりも一つの演説、説教です。この説教においてステファノが語っていることの殆どは、イスラエルの民の歴史です。ここには、今訴えられている問題についての、ステファノの考え、確

信が明確に述べられているのです。

彼が語り始めるのは、アブラハムのことです。アブラハムが神様のみ言葉を受けて、神様の示す地に向かって旅立ったことです。その歩みに、神様が彼に与えて下さったものが一つだけありました。それは、約束のみ言葉です。約束は、今はまだ目に見える現実となっていない約束です。

まだ起っていないことの約束です。アブラハムはこのような神様の約束のみ言葉を信じて歩みました。それが彼の信仰です。

ただ神様の約束のみ言葉だけを信じて生きる。その信仰は、今私たちに与えられ、私たちがそれによって歩んでいる信仰と同じです。私たちは、主イエス・キリストの十字架の死と復活によって与えられた神様の救いの恵みを信じています。

神様の独り子である主イエスが、その十字架の苦しみと死において、私たちの全ての罪を引き受け、それを背負って、私たちの代わりに死んで下さいました。それによって私たちは神様の赦しの恵みをいただいています。神様がその主イエスを死者の中から復活させられたことによって、神様の恵みが勝利し、私たちにも、主イエスの復活にあずかって永遠の命を生きる新しい体が約束されています。これらのことを信じて生きるのがキリスト者、クリスチャンの信仰です。

しかしこれらのことは全て、神様が聖書を通して告げて下さっているみ言葉であり、約束として与えられていることです。それが真実であることを証明する目に見える証拠や保証はありません。私たちに求められているのは、目に見える何の保証もないこの神様のみ言葉を信じて受け入れ、神様と共に生きることです。信仰とはそういうものです。